



活動日誌

1997年(平成9年)

3月13日 第21回汽水域研究懇談会

徳岡隆夫センター長, 國井秀伸助教授, 島根大学教育学部教授・野村律夫氏, 島根大学名誉教授・伊達善夫氏が『再び本庄工区を考える—干陸化と水域利用による漁業振興の是非をめぐって—』と題して話題提供. 参加者37名(内学外者20名).

(NEWSLETTER 第9号に記事)

3月25日 汽水域研究センター特別報告第3号「波根湖の研究」発行

3月 『LAGUNA汽水域研究』第4号発行.

5月 八束町江島に汽水域研究センター中海分室開設.(NEWSLETTER 第9号に記事)

6月23-28日 世界古代湖会議「古代湖における生物と文化の多様性」(於滋賀県立琵琶湖博物館)に参加. 竹広文明助手, 徳岡センター長, 高安克己教授が「潟湖周辺において展開されてきた人間活動—日本会沿岸の中海・宍道湖を例として—」と題してポスター発表.

7月14日 第22回汽水域研究懇談会

サンディエゴ州立大学教授・Susan L. Williams氏が「Environmental Problems in Coastal Marine Habitats of California」について話題提供. 参加者16名(内学外者4名).



写真1. 第22回懇談会での質疑風景(1997年7月14日).

7月22日 「汽水域の生物多様性保全に関する研究」と題して申請した平成9年度創造開発研究経費が採択され, 國井助教授がオランダ王立生態学研究所に在外研究員として出張(平成10年1月25日まで).

(NEWSLETTER 第9号に記事)

8月22日, 23日 公開講座『楽しい水辺の教室—神西湖パート2—』を実施. 小学生, 中学生を対象として, 高安克己教授, 竹広助手, 山口啓子研究員, 島根大学教育学部助教授・大谷修司氏, 出雲保健所・江角比出郎氏が担当した. 16名が受講.

(NEWSLETTER 第9号に記事)



写真2. 公開講座『楽しい水辺の教室—神西湖パート2—』で学習する子供たち(1997年8月22日, 23日).

9月5日 1996年2月に開催した島根大学・鳥取大学合同シンポジウム「山陰地方の現状と課題」の発表成果を『21世紀の環日本海(東海)交流をめぐって』と題して刊行する(たたら書房発行).

9月26日 汽水域研究センター特別講演会

東京大学名誉教授・湊 秀雄氏が「山陰産ゼオライト・火山性粘土の環境対策への活用」と題して講演.

10月25, 26日 汽水域総研'97シンポジウム

文部省科学研究費補助金基盤研究(A)(1)『海跡湖堆積物からみた汽水域の環境変化—その地域性と一般性—』(研究代表者: 高安克己教授)にかかわる研究集会を簸川郡湖陵町にて開催. 高安代表の趣旨説明の後, 徳岡センター長, 島根県水産試験場・中



写真3. 汽水域総研'97シンポジウムでの発表風景(1997年8月22日, 23日).

村幹雄氏, 出雲保健所・江角比出郎氏による3本の特別講演をはじめ, 研究分担者らにより29本の研究発表がおこなわれた。参加者は関連の分野の研究者も含め50名近くにのぼった。

10月29日 北東アジアシリーズ'97「古代出雲の青銅器文化—古代出雲の遺産・加茂岩倉出土銅鐸のルーツをさぐる—」に参加。(於: 島根県民会館)

10月30日 環日本海松江国際交流会議第3回島大シンポジウム「栄光の出雲, その実像を探る」に参加。(於: 島根大学)

11月10, 17, 25日, 12月1, 8日 公開講座『意宇川探訪—その歴史と自然—』を八束郡八雲村社会福祉センターにおいて実施。高安教授による「意宇川流域の地質と地形」, 竹広助手による「意宇川流域歴史のあけぼの」など, 5名のセンター教官・研究員などが講演した。28名が受講。

12月13日 第4回島根大学・鳥取大学合同シンポジウム「山陰地方の現状と課題—21世紀の山陰を担う先端技術—」に参加(於: 島根大学)。

1998年(平成10年)

1月9日 第5回汽水域研究・山陰地域研究発表会
延べ54名参加のもとで19題の研究が発表された。

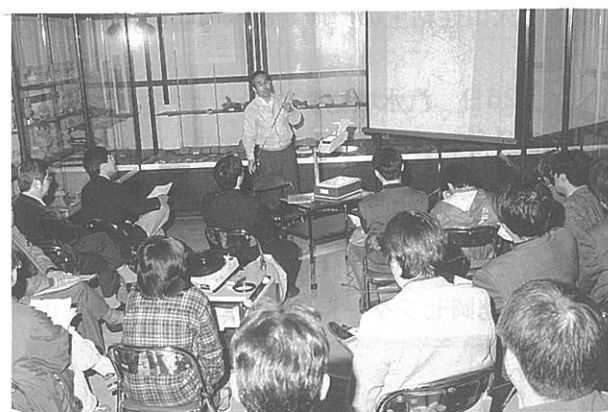


写真4. 第5回汽水域・山陰地域研究発表会での発表風景
(1998年1月8日)。

1月 NEWSLETTER 第9号発行。

2月9日 汽水域研究センター特別講演会(第23回汽水域研究懇談会)。

広島大学理学部・狩野彰宏氏が「鍾乳洞に記録された気候の解説」と題して講演。

3月6日 第24回汽水域研究懇談会。

広島大学生物生産学部附属水産実験所助教授・大塚 攻氏が「東アジア産汽水産カイアシ類の動

物地理」と題して話題提供。参加者19名(内学外者1名)。

3月9日 第25回汽水域研究懇談会。

国際日本文化研究センター・北川浩之氏が「 ^{14}C 年代測定の前線」と題して話題提供。参加者31名(内学外者10名)。



写真5. 第24回懇談会で話題提供する大塚 攻氏
(1998年3月6日)。



写真6. 第25回懇談会で話題提供する北川浩之氏
(1998年3月9日)。

文部省科学研究費の交付

平成9年度科学研究費補助金

基盤研究(A)「海跡湖堆積物から見た汽水域の環境変化—その地域性と一般性—」(継続, 研究代表者: 高安克己)

基盤研究(B)「中海本庄工区の生物多様性と生態系調査」(新規, 研究代表者: 國井秀伸)

基盤研究(A)「山陰汽水域の自然史と文化」
(継続, 研究代表者: 徳岡隆夫)

地方公共団体, 民間企業等との共同研究及び受託研究, 奨学寄附金

1997年(平成9年度)

[民間等との共同研究]

- ・ジオサイエンス(株)「ヘドロに含まれる重金属の効率的固定に関する研究」(研究代表者: 高安克己)

[受託研究]

- ・石油公団石油開発技術センター「海底扇状地堆積物における氷河性海水準変動の確定の研究」(研究担当者: 高安克己)

[奨学寄附金]

- ・タイヨーフォーム(株)「フローティングガーデンを用いた水質浄化の研究」(研究代表者: 國井秀伸)
- ・(財)土木研究センター「効率的な湖沼底泥処理技術の開発に関する研究」(研究代表者: 高安克己)
- ・芙蓉海洋開発(株)「汽水湖の底質改善に関わる基礎的研究」(研究代表者: 高安克己)